

バイオエンジニアリング研究会講演会 国内CDMO2030年への展望：核酸医薬、再生・細胞医薬分野、 mRNA医薬、抗体医薬が拓く医薬品製造革新の最前線

日時：2026年3月26日（木）14時～16時40分 終了後懇親会

定員：MS-Teams配信 500名+JBA会場20名

主催：一般財団法人バイオインダストリー協会 バイオエンジニアリング研究会

医薬品製造の新たな波——核酸、再生、細胞医薬、mRNA医薬、抗体医薬等の各領域を担う国内CDMOリーダーが技術革新と事業展望を語る。日本発の製造競争力の未来像に迫る。（講演20分+質疑10分、総合討論20分）

14:00～14:05 はじめに

大政 健史氏（大阪大学大学院工学研究科 生物工学専攻 教授、バイオエンジニアリング研究会 会長）

14:05～14:35 本格的な商用時代を迎える核酸医薬CDMOの取り組み

西尾 信彦氏（日東電工株式会社 ヒューマンライフソリューション事業部門 メディカル事業部 事業開発部長）

製造キャパシティの拡張、製造コスト・環境負荷を低減するプロセス技術、複雑化する核酸構造への対応をご紹介。

14:35～15:05 再生・細胞医療・遺伝子治療の進展を支える CRDMO戦略

橋爪 克仁氏（タカラバイオ株式会社 常務執行役員 CDM推進本部長）

製造に加え、研究・プロセス開発段階からの伴走型支援体制や、空間解析・ウイルス安全性評価などの新たなソリューションも紹介。

15:05～15:40 再生・細胞医薬の事業化・産業化に向けたCDMOの取り組み

土田 敦之氏（S-RACMO株式会社 代表取締役社長）

大学発シーズの実用化におけるCDMOの役割をアカデミア・スタートアップとの連携を含めて紹介。

15:40～16:10 横浜バイオ医薬開発製造新拠点のmRNA・抗体医薬の製造ラインの立ち上げ

宮田 雄一郎氏（AGCバイオリジクス 日本新拠点プロジェクトチーム mRNA & タンパク統括リーダー）

横浜で国内最大級の動物細胞培養拠点を整備し、デュアルユース仕様の高水準バイオ医薬品製造体制を構築。

16:15～16:35 日本発CDMOの競争力と連携の未来

座長：大政 健史氏 産学連携・規制対応・人材育成・国際展開など、多角的視点から2030年のCDMO産業像を討論。

16:35～16:40 おわりに **津本 浩平氏**（東京大学大学院 工学系研究科 教授、バイオエンジニアリング研究会 副会長）